

令和7年度伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館企画展

「終戦前夜の伊勢崎空襲」の展示内容について

①米軍資料から見た伊勢崎空襲

日本がポツダム宣言の受諾を連合国へ通達した約1時間後の1945年（昭和20）8月15日午前0時過ぎ、伊勢崎市は米軍86機からなる大型戦略爆撃機B-29により、焼夷弾による空襲を受けました。伊勢崎空襲は事前に偵察した航空写真から、本町四丁目交差点を中心とした市街地の大部分を含む半径約900メートルの範囲が焼夷弾の投下目標とされ、この範囲に必要な焼夷弾投弾量と爆撃機数を積算して、市街地壊滅を綿密に計算していました。展示ではこうした伊勢崎空襲の実態を、米軍の「作戦任務報告書」と「空襲損害評価報告書」から読み解きます。



作戦任務報告書 国立国会図書館より

②伊勢崎空襲の被害と市長の決断

伊勢崎空襲は、8月15日午前0時8分から2時15分まで、大量の焼夷弾が投下されました。使用された焼夷弾は、M69焼夷弾を38個格納したE46集束焼夷弾1,716個（M69焼夷弾は65,208個）、E47焼夷弾7,858個の2種類が使用され、また27個の爆弾も使用されています。この空襲では、市街地を中心に40人が亡くなっていますが、8月5日の前橋空襲の被害実態を目の当たりにした板垣源四郎市長の全員避難の指示により、最小限の被害で食い止めることができました。展示では、伊勢崎空襲の被害と、市長の決断について紹介します。

他にも、三郷村の空襲状況が記録される「三郷小学校沿革誌」や、空襲で焼失する伊勢崎高等女学校の絵画、空襲で焼けたレコード、溶けたガラス容器などを展示します。

名和村(山王町)に投下された焼夷弾



E46集束焼夷弾弾頭

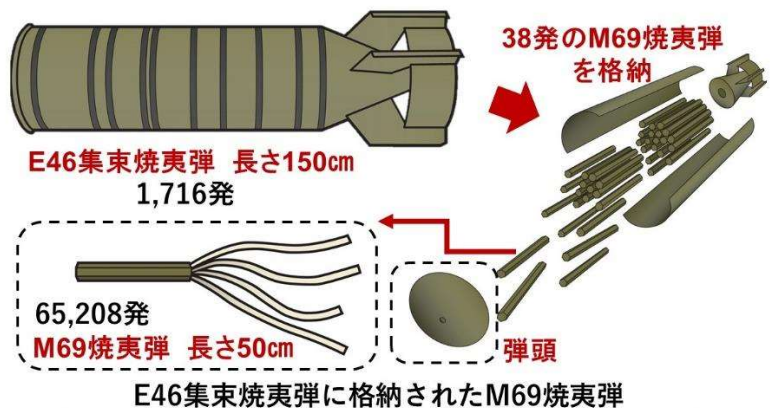


M69焼夷弾

豊城町に投下された焼夷弾



M47焼夷弾(7,858発) 長さ120cm





当時の伊勢崎市役所（本町四丁目北側交差点付近）から、焼失後の市街地 昭和20年10月2日撮影



伊勢崎市役所屋上に投下された焼夷弾をもつ板垣源四郎市長

③満州事変から終戦へ

本企画展では、伊勢崎空襲だけでなく、1931年（昭和6）の満州事変から終戦に至るまでの戦争の経緯も展示テーマとします。満州事変に出征した高崎歩兵第十五連隊の兵士、日中戦争で中国に長期にわたり出征した砲兵を、写真や記録をから紹介します。

中でも特に注目される資料は、1941年（昭和16）の日米開戦となった真珠湾攻撃の奇襲作戦を実行し、その後九軍神の一人となった前橋市出身の岩佐直治中佐の胸像です。胸像背面には「軍神岩佐中佐像」とあり、寄贈者は市図書館や消防署、夜間学舎建設に多額の寄付をした伊勢崎市の二代目板垣清平（いたがきせいへい）です。昭和18年4月発行の「伊勢崎市報」には、板垣が市内の北・南・茂呂・殖蓮の各国民学校に1体ずつ寄贈したと記されており、軍神を通じた軍国教育がなされていた実態がうかがえる資料です。この胸像は個人所蔵ですが、所蔵者の父が岩佐中佐と前橋中学で同級生であり、終戦時に茂呂国民学校の教員であったことから、密かに託されたとのこと。岩佐中佐の軍神像は、他にも存在していましたが戦後に存在自体が隠されたり破棄されました。本胸像は現在確認できる唯一の軍神岩佐中佐像で、これまで公にされたことはなく、戦後80年を経てこの度初公開となります。



軍神岩佐中佐胸像 個人蔵

これ以外にも、九三式重爆撃機プロペラ、一式戦闘機「隼」木製落下タンク、茂呂国民学校旗など多くの初公開資料を展示します。

④企画展関連事業の開催

企画展と連動して、歴史文化講座と映画「ひろしま」の上映も行います。

●歴史文化講座

第1回 7月6日（日）「経済の論理と国家の論理—上海から見た日中戦争—」

講師 群馬大学共同教育学部准教授 今井就稔（いまいなるみ）さん

第2回 7月20日（日）「アジア太平洋戦争と高崎連隊」

講師 太田市立新田荘歴史資料館学芸員 前澤哲也（まえざわてつや）さん

●映画「ひろしま」の上映

協力：伊勢崎市平和祈念講演実行委員会

期日：8月3日（日）午前10時～（上映時間1時間44分）

問い合わせ先

赤堀歴史民俗資料館

川道 TEL0270-63-0030